サービスアプライアンスノードを導入する StorageGRID

NetApp
April 10, 2024

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/storagegrid-116/sg100-1000/deploying-services-appliance-as-primary-admin-node.html on April 10, 2024. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

サービスアプライアンスノードを導入する . . . 1
- サービスアプライアンスをプライマリ管理ノードとして導入する . . . 1
- ゲートウェイノードまたは非プライマリ管理ノードとしてサービスアプライアンスを導入する . . . 4
- サービスアプライアンスの設置を監視する . . . 9
- アプライアンスのインストールと設定（ SG100 および SG1000 ）を自動化する . . . 11
- インストール REST API の概要 . . . 19

サービスアプライアンスノードを導入する

サービスアプライアンスは、プライマリ管理ノード、非プライマリ管理ノード、またはゲートウェイノードとして導入できます。SG100 と SG1000 アプライアンスは、両方ともゲートウェイノードと管理ノード（プライマリまたは非プライマリ）として同時に動作できます。

サービスアプライアンスをプライマリ管理ノードとして導入する

サービスアプライアンスをプライマリ管理ノードとして導入する場合は、アプライアンスに組み込みの StorageGRID アプライアンスインストーラを使用して StorageGRID ソフトウェアをインストールするか、インストールするソフトウェアバージョンをアップロードします。プライマリ管理ノードは、他のタイプのアプライアンスノードをインストールする前にインストールして設定する必要があります。プライマリ管理ノードは、グリッドネットワーク、およびオプションの管理ネットワークとクライアントネットワーク（いずれかまたは両方が設定されている場合）に接続できます。

必要なもの

- アプライアンスをラックまたはキャビネットに設置し、ネットワークに接続し、電源を投入しておきます。
- StorageGRID アプライアンスインストーラを使用して、アプライアンスのネットワークリンク、 IP アドレス、ポートの再マッピング（必要な場合）を設定しておきます。

  > ポートを再マッピングした場合、同じポートを使用してロードバランサエンドポイントを設定することはできません。再マッピングしたポートを使用してエンドポイントを作成できますが、これらのエンドポイントはロードバランササービスではなく、元の CLB ポートおよびサービスに再マッピングされます。の手順に従います ポートの再マッピングを削除。

  を参照してください ロードバランシングの仕組み - CLB サービス（廃止） CLB サービスの詳細については、を参照してください。

  > CLB サービスは廃止されました。

- を搭載したサービスラップトップを用意します サポートされている Web ブラウザ。
- アプライアンスに割り当てられている IP アドレスのいずれかを確認しておきます。接続されているどの StorageGRID ネットワークの IP アドレスでも使用できます。

このタスクについて

アプライアンスプライマリ管理ノードに StorageGRID をインストールするには、次の手順を実行します。

- StorageGRID ソフトウェアをインストールするには、 StorageGRID アプライアンスインストーラを使用します。別のバージョンのソフトウェアをインストールする場合は、まず StorageGRID アプライアンスインストーラを使用してソフトウェアをアップロードします。

- ソフトウェアがインストールされるまで待ちます。
- ソフトウェアがインストールされると、アプライアンスが自動的にリブートされます。

手順

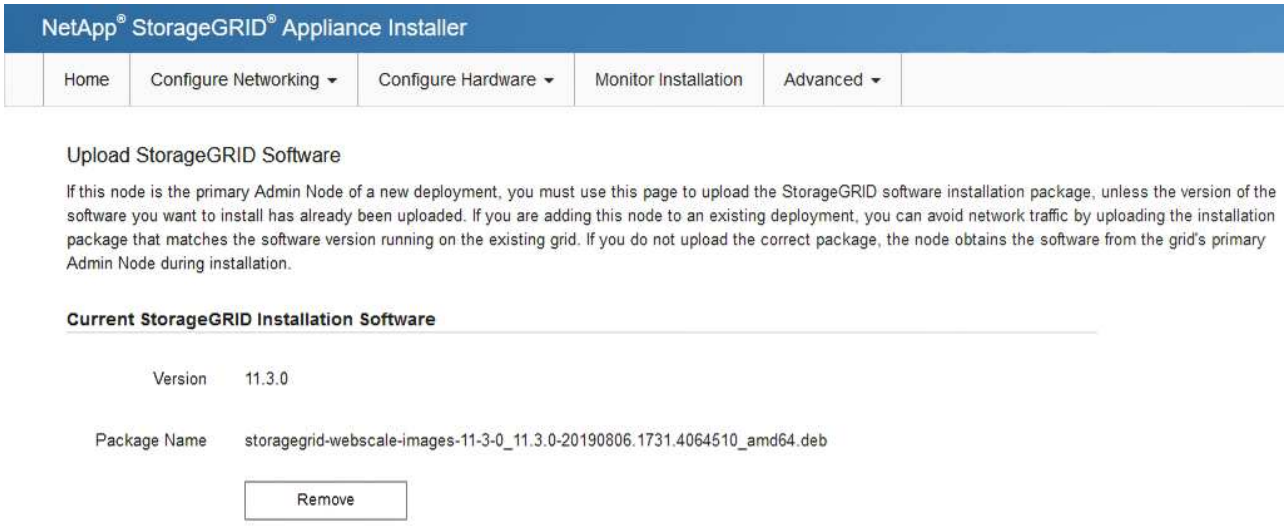
1. ブラウザを開き、アプライアンスの IP アドレスを入力します。+*
   `https://services_appliance_IP:8443*`

   StorageGRID アプライアンスインストーラのホームページが表示されます。

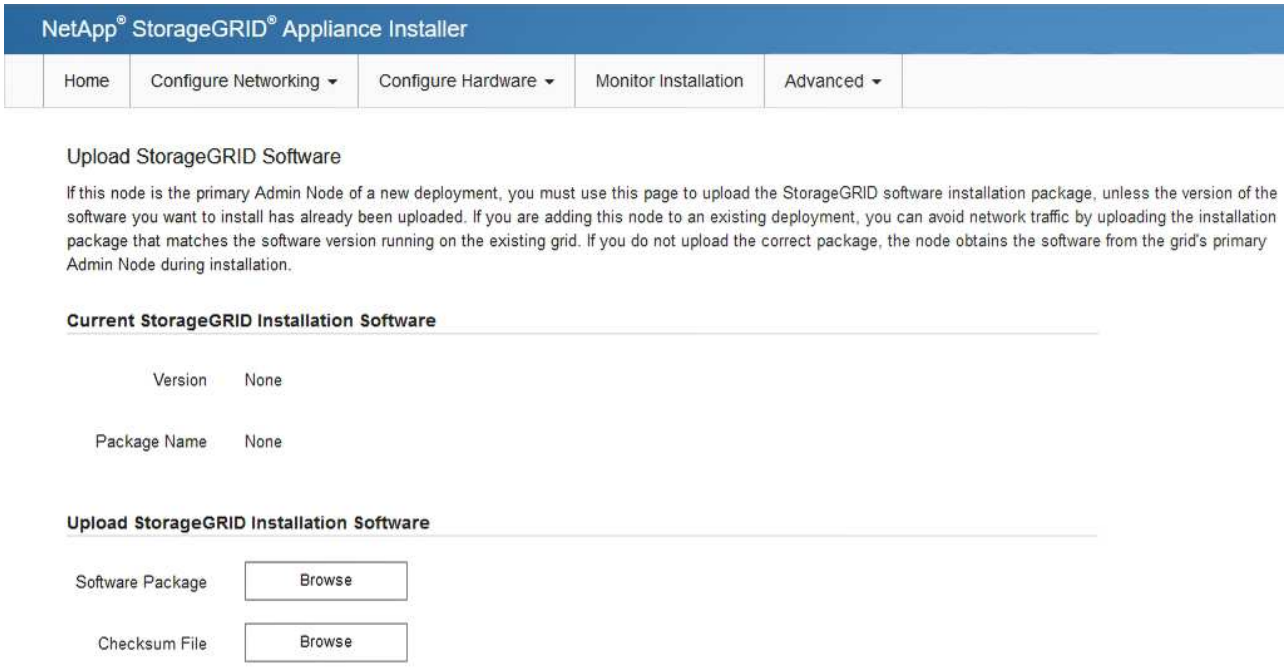
2. [このノード *] セクションで、 [* プライマリ管理者 *] を選択します。
3. [* Node name* （ノード名 * ）] フィールドに、このアプライアンスノードに使用する名前を入力し、 [* Save * （保存）] をクリックします。

   このノード名は、 StorageGRID システムでこのアプライアンスノードに割り当てられ、グリッドノードは Grid Manager の Grid Nodes ページに表示されます。

4. 別のバージョンの StorageGRID ソフトウェアをインストールする必要がある場合は、次の手順を実行します。
   a. インストールアーカイブをダウンロードします。https://mysupport.netapp.com/site/products/all/details/storagegrid-appliance/downloads-tab["ネットアップのダウンロード：StorageGRID アプライアンス"^]。
   b. アーカイブを展開します。
   c. StorageGRID アプライアンス・インストーラから、 * アドバンスト * > * StorageGRID ソフトウェアのアップロード * を選択します。
   d. [削除] をクリックして、現在のソフトウェアパッケージを削除します。



   e. ダウンロードして解凍したソフトウェアパッケージの [**Browse**](参照) をクリックし、チェックサムファイルの [**Browse**](参照) をクリックします。

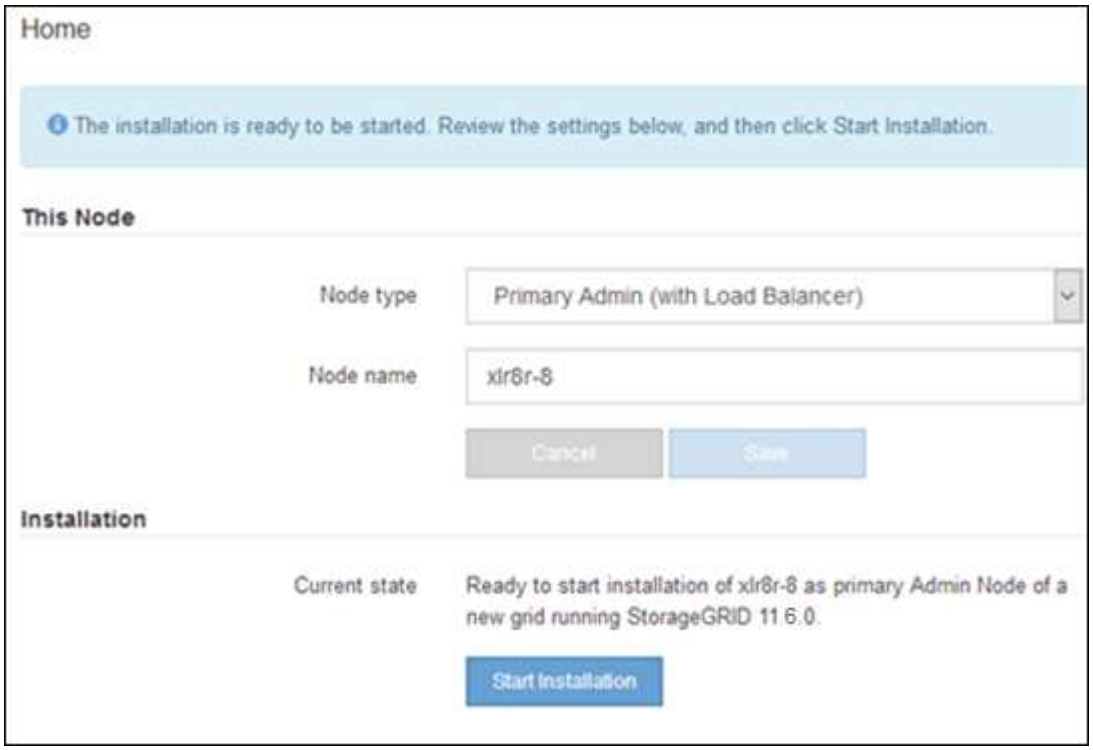


f. ホームページに戻るには、「 * Home * 」（ホーム）を選択します。

5. 現在の状態が「 Ready to start installation of primary Admin Node name with software version x.y' 」であり、「 Start Installation * 」ボタンが有効になっていることを確認します。

> 管理ノードアプライアンスをノードクローニングターゲットとして導入する場合は、ここで導入プロセスを停止し、に従ってノードのクローニング手順 を続行してください リカバリとメンテナンス 手順

6. StorageGRID アプライアンスインストーラのホームページで、 * インストールの開始 * をクリックします。



現在の状態が「 Installation is in progress 」に変わり、「 Monitor Installation 」ページが表示されます。

モニタのインストールページに手動でアクセスする必要がある場合は、メニューバーから * モニタのインストール * をクリックします。

ゲートウェイノードまたは非プライマリ管理ノードとしてサービスアプライアンスを導入する

サービスアプライアンスをゲートウェイノードまたは非プライマリ管理ノードとして導入する場合は、アプライアンスに搭載されている StorageGRID アプライアンスインストーラを使用します。

必要なもの

- アプライアンスをラックまたはキャビネットに設置し、ネットワークに接続し、電源を投入しておきます。
- StorageGRID アプライアンスインストーラを使用して、アプライアンスのネットワークリンク、 IP アドレス、ポートの再マッピング（必要な場合）を設定しておきます。

ポートを再マッピングした場合、同じポートを使用してロードバランサエンドポイントを設定することはできません。再マッピングしたポートを使用してエンドポイントを作成できますが、これらのエンドポイントはロードバランササービスではなく、元の CLB ポートおよびサービスに再マッピングされます。の手順に従います ポートの再マッピングを削除。

CLB サービスは廃止されました。

- StorageGRID システムのプライマリ管理ノードを導入しておきます。
- StorageGRID アプライアンスインストーラの IP 設定ページに表示されるすべてのグリッドネットワークサブネットが、プライマリ管理ノードのグリッドネットワークサブネットリストで定義されている。
- を搭載したサービスラップトップを用意します サポートされている Web ブラウザ。
- アプライアンスに割り当てられている IP アドレスを確認しておきます。接続されているどの StorageGRID ネットワークの IP アドレスでも使用できます。

このタスクについて

StorageGRID をサービスアプライアンスノードにインストールするには、次の手順を実行します。

- プライマリ管理ノードの IP アドレスおよびアプライアンスノードの名前を指定または確認します。
- インストールを開始し、ソフトウェアがインストールされるまで待ちます。

  アプライアンスゲートウェイノードのインストールが一時停止します。インストールを再開するには、 Grid Manager にサインインし、グリッドノードをすべて承認し、 StorageGRID のインストールプロセスを完了します。非プライマリ管理ノードをインストールする場合、承認は必要ありません。

SG100 と SG1000 サービスアプライアンスは同じサイトに導入しないでください。パフォーマンスが予測不能になる可能性があります

一度に複数のアプライアンス・ノードを導入する必要がある場合は 'configure-sSGA .py アプライアンス・インストール・スクリプトを使用して ' インストール・プロセスを自動化できます また、アプライアンスインストーラを使用して、構成情報を含む JSON ファイルをアップロードすることもできます。を参照してください アプライアンスのインストールと設定（ SG100 および SG1000 ）を自動化する インストールの自動化の詳細については、を参照してください。

手順

1. ブラウザを開き、アプライアンスの IP アドレスを入力します。

   「 * https://*Controller_IP*:8443*` 」と入力します

   StorageGRID アプライアンスインストーラのホームページが表示されます。

2. プライマリ管理ノードの接続セクションで、プライマリ管理ノードの IP アドレスを指定する必要があるかどうかを確認します。

   このデータセンターに他のノードがすでにインストールされている場合は、プライマリ管理ノードまたは ADMIN_IP が設定された少なくとも 1 つのグリッドノードが同じサブネットにあるという想定で、StorageGRID アプライアンスインストーラがこの IP アドレスを自動的に検出します。

3. この IP アドレスが表示されない場合や変更する必要がある場合は、アドレスを指定します。

オプション	説明
IP を手動で入力します	a. Enable Admin Node discovery * チェックボックスの選択を解除します。 b. IP アドレスを手動で入力します。 c. [保存（ Save ）] をクリックします。 d. 新しい IP アドレスの接続状態が READY になるまで待ちます。
接続されたすべてのプライマリ管理ノードの自動検出	a. Enable Admin Node discovery * チェックボックスを選択します。 b. 検出された IP アドレスのリストが表示されるまで待ちます。 c. このアプライアンスストレージノードを導入するグリッドのプライマリ管理ノードを選択します。 d. [保存（ Save ）] をクリックします。 e. 新しい IP アドレスの接続状態が READY になるまで待ちます。

4. [* Node name* （ノード名 * ）] フィールドに、このアプライアンスノードに使用する名前を入力し、 [* Save * （保存）] をクリックします。

   このノード名は、 StorageGRID システムでこのアプライアンスノードに割り当てられ、このタブは、Grid Manager のノードページ（概要タブ）に表示されます。ノードを承認するときに、必要に応じて、

この名前を変更できます。

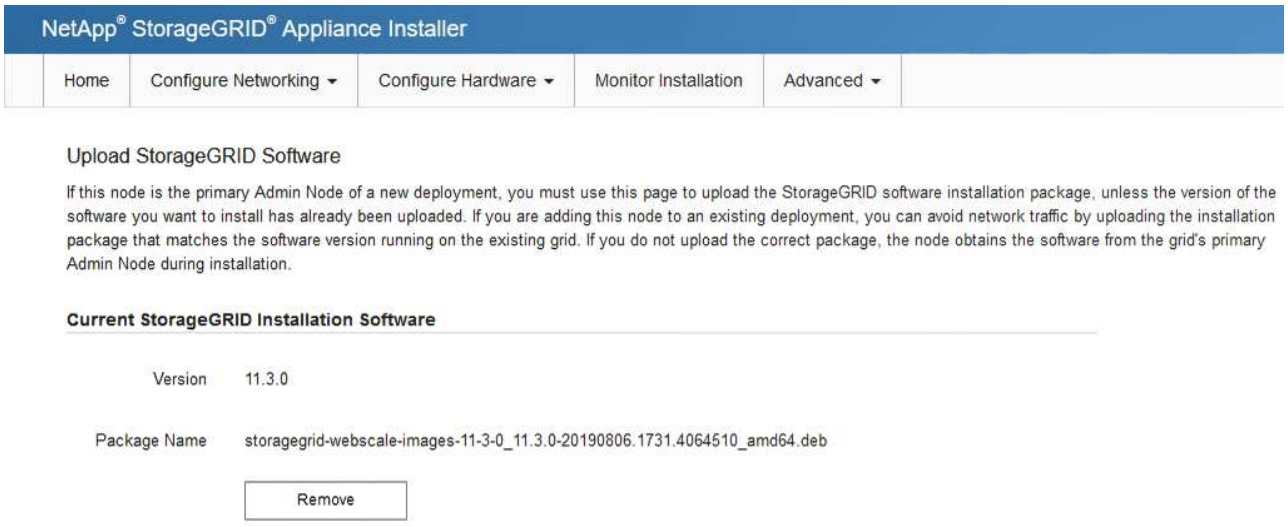
5. 別のバージョンの StorageGRID ソフトウェアをインストールする必要がある場合は、次の手順を実行します。

   a. インストールアーカイブをダウンロードします。https://mysupport.netapp.com/site/products/all/details/storagegrid-appliance/downloads-tab["ネットアップのダウンロード：StorageGRID アプライアンス"^]。

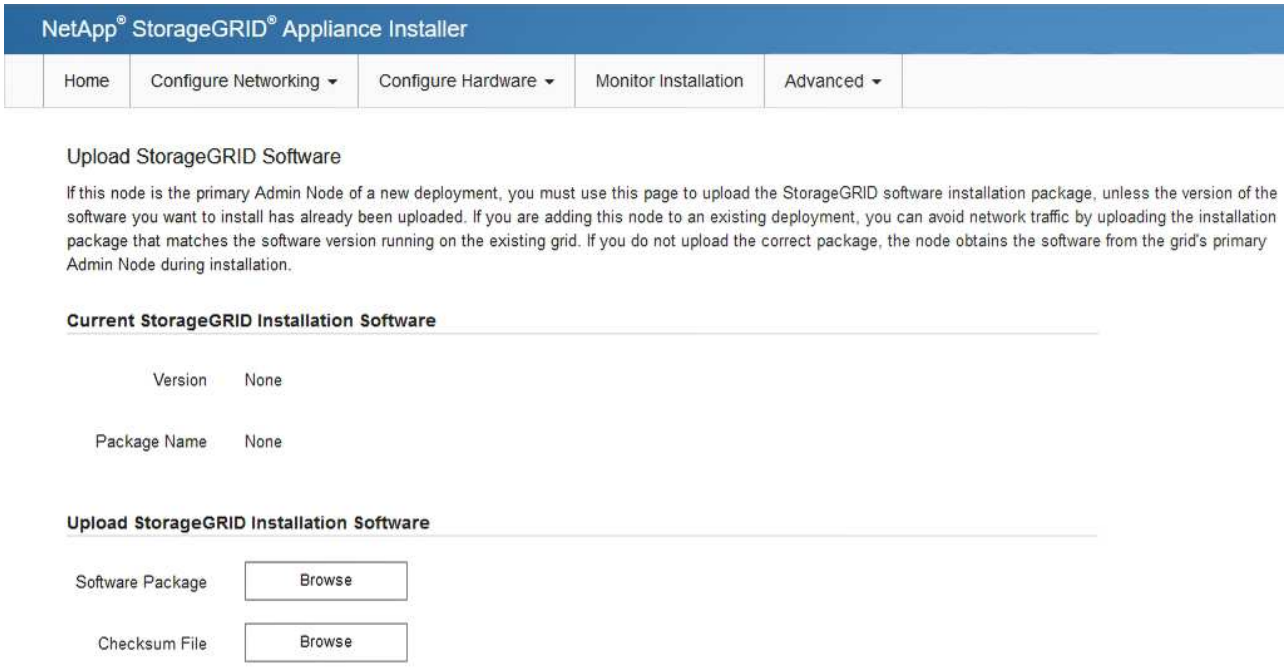
   b. アーカイブを展開します。

   c. StorageGRID アプライアンス・インストーラから、 * アドバンスト * > * StorageGRID ソフトウェアのアップロード * を選択します。

   d. [削除] をクリックして、現在のソフトウェアパッケージを削除します。



   e. ダウンロードして解凍したソフトウェアパッケージの [**Browse**](参照) をクリックし、チェックサムファイルの [**Browse**](参照) をクリックします。

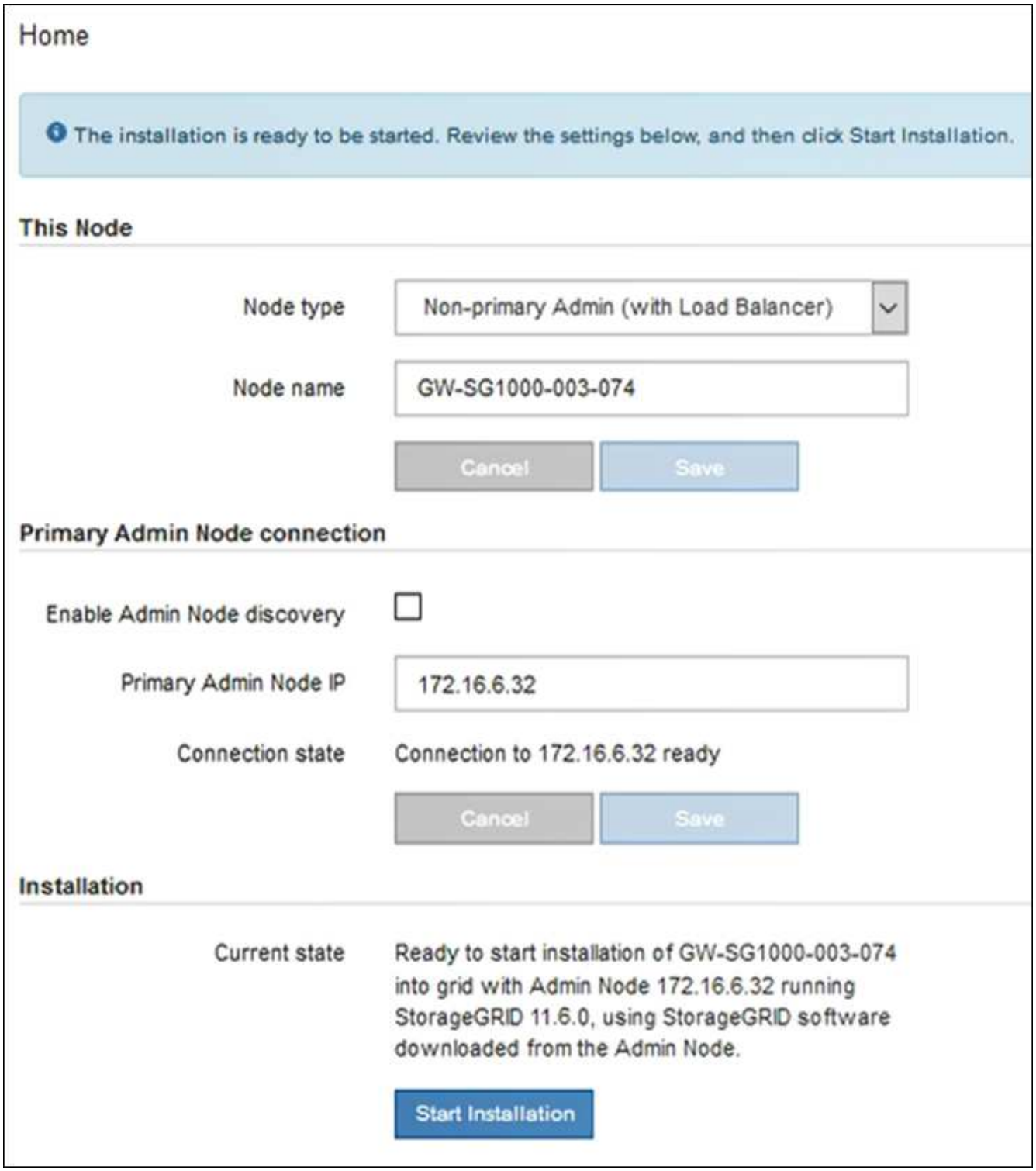


f. ホームページに戻るには、「 * Home * 」（ホーム）を選択します。

6. インストールセクションで ' 現在の状態が "*node name*' のグリッドへのインストールをプライマリ管理ノード `admin_ip` で開始する準備ができていることと **'Start Installation** ボタンが有効になっていることを確認します

   [Start Installation* （インストールの開始）] ボタンが有効になっていない場合は、ネットワーク設定またはポート設定の変更が必要になることがあります。手順については、使用しているアプライアンスのインストールとメンテナンスの手順を参照してください。

7. StorageGRID アプライアンスインストーラのホームページで、 * インストールの開始 * をクリックします。



現在の状態が「 Installation is in progress 」に変わり、「 Monitor Installation 」ページが表示されます。

モニタのインストールページに手動でアクセスする必要がある場合は、メニューバーから * モニタのインストール * をクリックします。

8. グリッドに複数のアプライアンスノードがある場合は、アプライアンスごとに上記の手順を繰り返します。

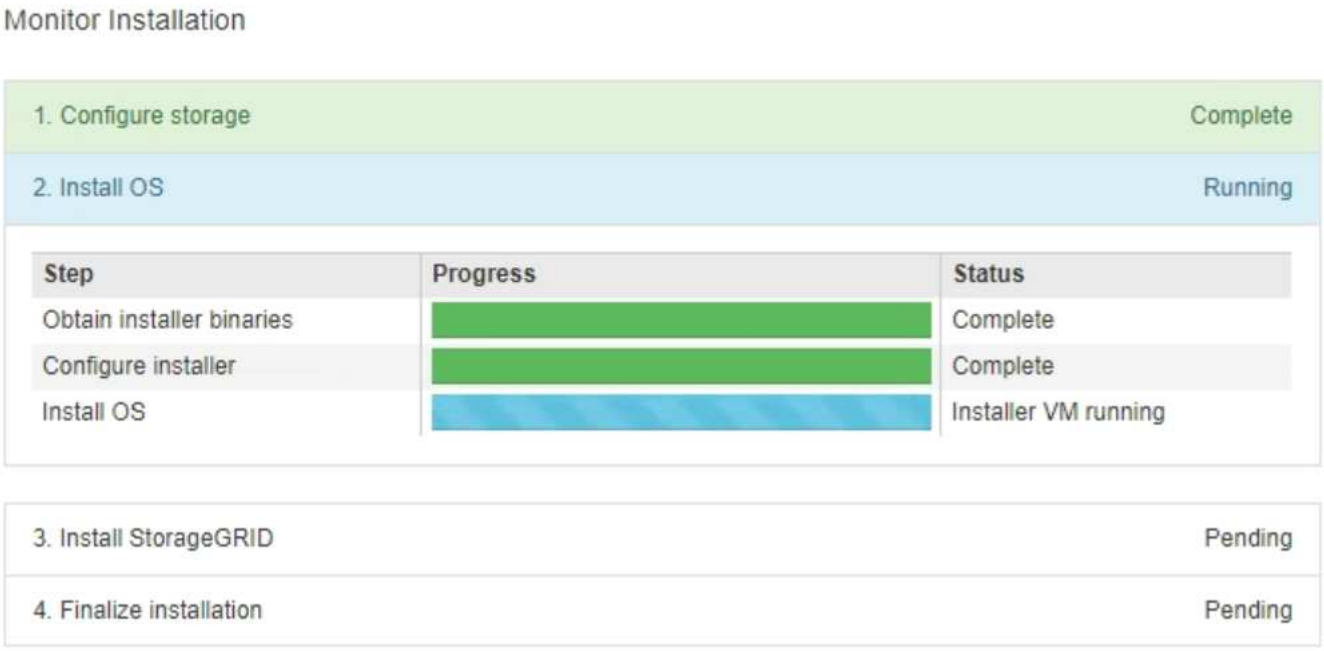
サービスアプライアンスの設置を監視する

StorageGRID アプライアンスインストーラでは、インストールが完了するまでステータスが提供されます。ソフトウェアのインストールが完了すると、アプライアンスがリブートされます。

手順

1. インストールの進行状況を監視するには、メニューバーの * インストールの監視 * をクリックします。

   Monitor Installation ページにインストールの進行状況が表示されます。



   青色のステータスバーは、現在進行中のタスクを示します。緑のステータスバーは、正常に完了したタスクを示します。

   インストーラは、以前のインストールで完了したタスクが再実行されないようにします。インストールを再実行している場合 ' 再実行する必要のないタスクは ' 緑色のステータスバーとステータスが [スキップ済み] と表示されます

2. インストールの最初の 2 つのステージの進行状況を確認します。

   - * 1 。ストレージの構成 *

     インストーラがアプライアンスのドライブから既存の設定を消去し、ホストを設定します。

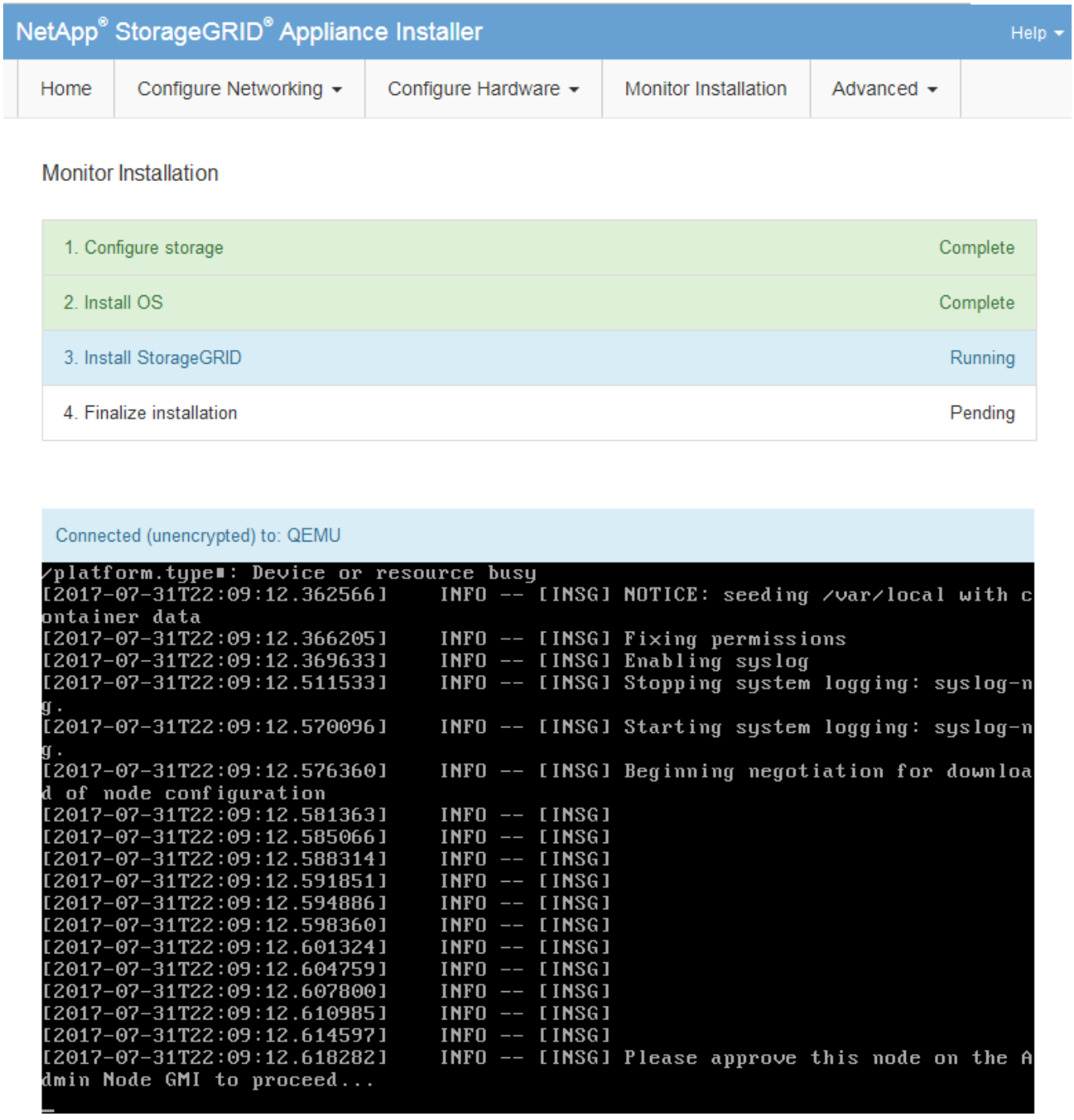
   - ※ 2OS * をインストールします

     インストーラが StorageGRID のベースとなるオペレーティングシステムイメージをアプライアンスにコピーします。

3. 次のいずれかのプロセスが実行されるまで、インストールの進行状況を監視します。

- プライマリ管理ノードを除くすべてのアプライアンスノードで、 Install StorageGRID ステージが一時停止し、組み込みのコンソールにメッセージが表示されて、グリッドマネージャを使用して管理ノードでこのノードを承認するように求められます。次の手順に進みます。
- アプライアンスプライマリ管理ノードをインストールする場合、ノードを承認する必要はありません。アプライアンスがリブートされます。次の手順は省略できます。

> アプライアンスプライマリ管理ノードをインストールしている場合、 5 つ目のステージが表示されます（ 4 つのフェーズを示すスクリーンショットの例を参照）。第 5 フェーズが 10 分以上たっても完了しない場合は、 Web ページを手動で更新してください。



4. プライマリ管理ノードのグリッドマネージャに移動し、保留中のグリッドノードを承認して、

StorageGRID のインストールプロセスを完了します。

Grid Manager から * Install * をクリックすると、ステージ 3 が完了し、ステージ 4 * Finalize Installation * が開始されます。ステージ 4 が完了すると、アプライアンスがリブートされます。

アプライアンスのインストールと設定（ SG100 および SG1000 ）を自動化する

アプライアンスのインストールと設定、および StorageGRID システム全体の設定を自動化することができます。

このタスクについて

インストールと設定を自動化すると、複数の StorageGRID インスタンス、または大規模で複雑な StorageGRID インスタンスを 1 つ導入する場合に便利です。

インストールと設定を自動化するには、次のオプションを 1 つ以上使用します。

- アプライアンスの構成設定を指定した JSON ファイルを作成します。StorageGRID アプライアンスインストーラを使用して JSON ファイルをアップロードします。

  同じファイルを使用して、複数のアプライアンスを設定できます。

- StorageGRID の configure -sSGA .py Python スクリプトを使用して、アプライアンスの設定を自動化します。
- 追加の Python スクリプトを使用して、 StorageGRID システム全体の他のコンポーネント（「グリッド」）を設定します。

Python スクリプトを StorageGRID 自動化で直接使用することも、 StorageGRID インストール REST API を独自に開発するグリッド導入および設定ツールで使用する例として使用することもできます。の手順を参照してください StorageGRID インストールファイルのダウンロードと展開。

StorageGRID アプライアンスインストーラを使用してアプライアンスの設定を自動化する

設定情報を含む JSON ファイルを使用して、アプライアンスの設定を自動化することができます。ファイルは StorageGRID アプライアンスインストーラを使用してアップロードします。

必要なもの

- アプライアンスは、 StorageGRID 11.5 以降と互換性のある最新のファームウェアを使用している必要があります。
- を使用して設定するアプライアンスで StorageGRID アプライアンスインストーラに接続する必要があります サポートされている Web ブラウザ。

このタスクについて

次の設定など、アプライアンスの設定作業を自動化することができます。

- グリッドネットワーク、管理ネットワーク、およびクライアントネットワークの IP アドレス
- BMC インターフェイス
- ネットワークリンク
  - ポートボンディングモード
  - ネットワークボンディングモード
  - リンク速度

アップロードした JSON ファイルを使用してアプライアンスを設定する方が、 StorageGRID アプライアンスインストーラの複数のページを使用して手動で設定を行うよりも効率的です。特に、多数のノードを設定する必要がある場合は効果的です。構成ファイルはノードごとに 1 つずつ適用する必要があります。

アプライアンスのインストールと設定の両方を自動化したいと考えている経験豊富なユーザが、以下を実現できます configure-sga.py スクリプトを使用します。

手順

1. 次のいずれかを使用して JSON ファイルを生成します。
   - 。 "ConfigBuilder アプリケーション"。
   - 。 configure-sga.pyアプライアンス構成スクリプト。スクリプトは、StorageGRID アプライアンスインストーラ（* Help アプライアンス構成スクリプト）からダウンロードできます。

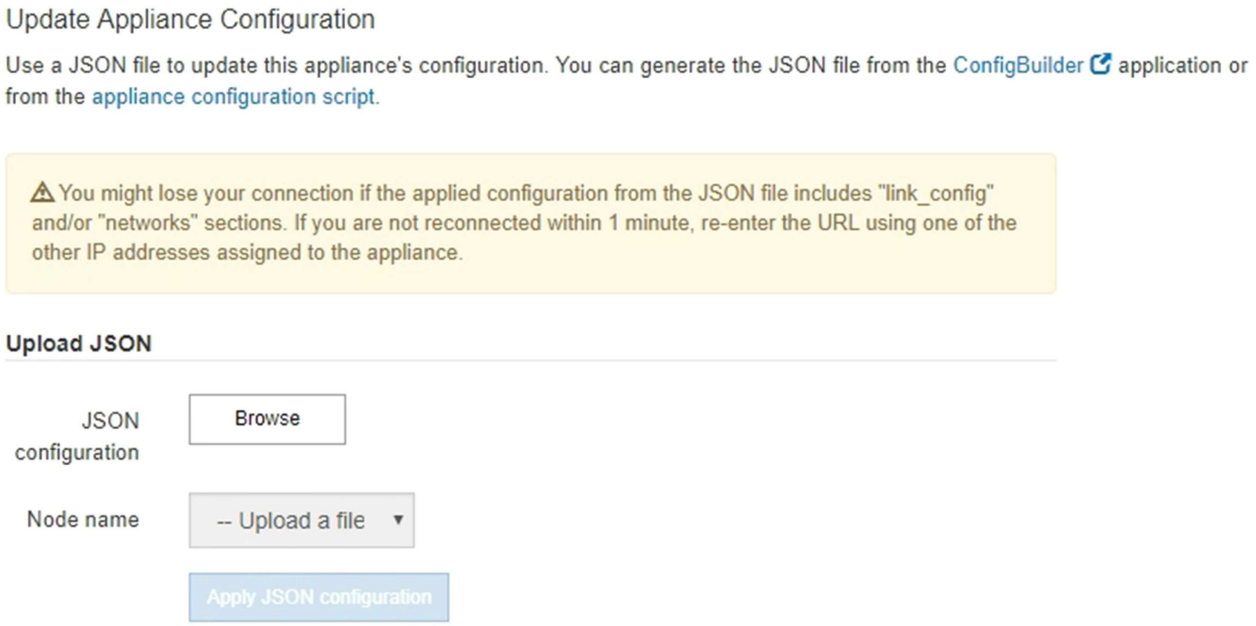
     JSON ファイル内のノード名は、次の要件に従う必要があります。

     - 1 文字以上 32 文字以下の有効なホスト名を指定する必要があります
     - アルファベット、数字、およびハイフンを使用できます
     - 1 文字目または最後の文字をハイフンにすることはできません
     - 数字だけを含めることはできません

       JSON ファイル内のノード名（最上位の名前）が一意であることを確認してください。一意でないと、 JSON ファイルを使用して複数のノードを設定できません。

2. 「 * Advanced * > * Update Appliance Configuration * 」を選択します。

   [Update Appliance Configuration] ページが表示されます。



3. アップロードする設定の JSON ファイルを選択します。

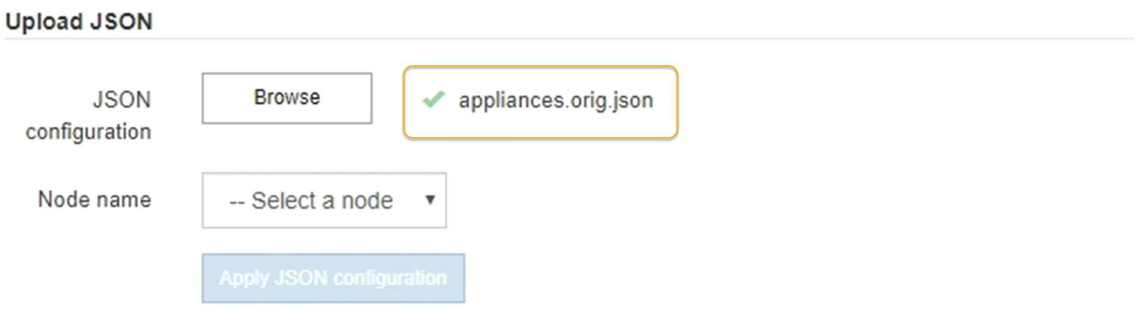
   a. [* 参照 *] を選択します。

   b. ファイルを探して選択します。

   c. 「 * 開く * 」を選択します。

   ファイルがアップロードされて検証されます。検証プロセスが完了すると、ファイル名が緑色のチェックマークの横に表示されます。

   > JSON ファイルの構成に「 link_config 」、「 networks 」、またはその両方のセクションが含まれている場合は、アプライアンスへの接続が失われる可能性があります。1 分以内に再接続されない場合は、アプライアンスに割り当てられている他の IP アドレスのいずれかを使用して、アプライアンスの URL を再入力します。

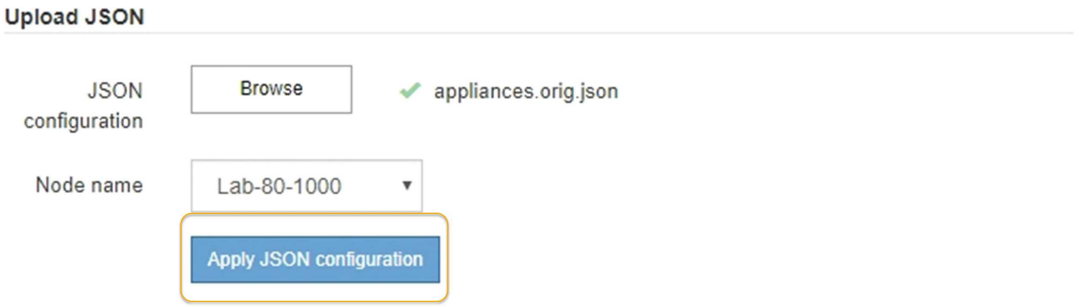


   ノード名 * ドロップダウンには、 JSON ファイルで定義された最上位のノード名が表示されます。

ファイルが有効でない場合、ファイル名は赤色で表示され、黄色のバナーにエラーメッセージが表示されます。無効なファイルはアプライアンスに適用されません。ConfigBuilder を使用して、有効な JSON ファイルを作成できます。

4. ノード名 * ドロップダウンのリストからノードを選択します。

   Apply JSON configuration * ボタンが有効になっている。



5. Apply JSON configuration * を選択します。

   選択したノードに構成が適用されます。

configure-sga.py スクリプトを使用して、アプライアンスノードのインストールと設定を自動化します

configure -sSGA .py スクリプトを使用すると、プライマリ管理ノードのインストールや設定など、 StorageGRID アプライアンスノードのインストールタスクや設定タスクの多くを自動化できます。このスクリプトは、設定するアプライアンスが多数ある場合に役立ちます。スクリプトを使用して、アプライアンスの設定情報を含む JSON ファイルを生成することもできます。

必要なもの

- アプライアンスをラックに設置し、ネットワークに接続し、電源を投入しておきます。
- StorageGRID アプライアンスインストーラを使用してプライマリ管理ノードのネットワークリンクと IP アドレスを設定しておきます。
- プライマリ管理ノードをインストールする場合は、その IP アドレスを確認しておきます。
- 他のノードをインストールして設定する場合は、プライマリ管理ノードが導入され、その IP アドレスを確認しておきます。
- プライマリ管理ノード以外のすべてのノードについて、 StorageGRID アプライアンスインストーラの IP 設定ページに表示されるすべてのグリッドネットワークサブネットが、プライマリ管理ノードのグリッドネットワークサブネットリストで定義されている。
- 「 configure-sSGA .py 」ファイルがダウンロードされています。このファイルはインストール・アーカイブに含まれています。または、 StorageGRID アプライアンス・インストーラの * Help * > * Appliance Installation Script * をクリックしてアクセスできます。

この手順 は、コマンドラインインターフェイスを使用した経験のある上級ユーザを対象としています。または、を使用することもできます 設定を自動化するには、 StorageGRID アプライアンスインストーラを使用します。

手順

1. Python スクリプトを実行するために使用する Linux マシンにログインします。
2. スクリプト構文に関する一般的なヘルプおよび使用可能なパラメータの一覧を表示するには、次のように入力します。

```
configure-sga.py --help
```

「 configure -SGA .py 」スクリプトでは、次の 5 つのサブコマンドが使用されています。

- StorageGRID アプライアンスの高度な操作（ BMC の設定、アプライアンスの現在の設定を含む JSON ファイルの作成など
- RAID モード ' ノード名 ' およびネットワーク・パラメータを構成するための configure
- StorageGRID のインストールを開始するためのインストール
- StorageGRID のインストールを監視するための「 monitor 」
- アプライアンスを再起動するための再起動

  サブコマンド（ advanced 、 configure 、 install 、 monitor 、または reboot ）引数に続けて「 --help 」オプションを入力すると、そのサブコマンド内で使用可能なオプションの詳細を示す別のヘルプテキストが表示されます。 +configure-sga.py _subcommand _ --help

3. アプライアンス・ノードの現在の構成を確認するには ' 次のように入力しますここで '*sSGA -install-ip* は ' アプライアンス・ノードのいずれかの IP アドレスです +`configure-sga.py configure_SGA -install-ip_

   この結果には、プライマリ管理ノードの IP アドレスや管理、グリッド、クライアントネットワークに関する情報など、アプライアンスの現在の IP 情報が表示されます。

```
Connecting to +https://10.224.2.30:8443+ (Checking version and
connectivity.)
2021/02/25 16:25:11: Performing GET on /api/versions... Received 200
2021/02/25 16:25:11: Performing GET on /api/v2/system-info... Received
200
2021/02/25 16:25:11: Performing GET on /api/v2/admin-connection...
Received 200
2021/02/25 16:25:11: Performing GET on /api/v2/link-config... Received
200
2021/02/25 16:25:11: Performing GET on /api/v2/networks... Received 200
2021/02/25 16:25:11: Performing GET on /api/v2/system-config... Received
200

  StorageGRID Appliance
    Name:        LAB-SGA-2-30
```

```
  Node type:   storage

StorageGRID primary Admin Node
  IP:        172.16.1.170
  State:     unknown
  Message:   Initializing...
  Version:   Unknown

Network Link Configuration
  Link Status
        Link      State      Speed (Gbps)
        ----      -----      -----
        1         Up         10
        2         Up         10
        3         Up         10
        4         Up         10
        5         Up         1
        6         Down       N/A

  Link Settings
      Port bond mode:      FIXED
      Link speed:          10GBE

      Grid Network:        ENABLED
          Bonding mode:    active-backup
          VLAN:            novlan
          MAC Addresses:   00:a0:98:59:8e:8a  00:a0:98:59:8e:82

      Admin Network:       ENABLED
          Bonding mode:    no-bond
          MAC Addresses:   00:80:e5:29:70:f4

      Client Network:      ENABLED
          Bonding mode:    active-backup
          VLAN:            novlan
          MAC Addresses:   00:a0:98:59:8e:89  00:a0:98:59:8e:81

Grid Network
  CIDR:      172.16.2.30/21 (Static)
  MAC:       00:A0:98:59:8E:8A
  Gateway:   172.16.0.1
  Subnets:   172.17.0.0/21
             172.18.0.0/21
             192.168.0.0/21
  MTU:       1500
```

```
  Admin Network
    CIDR:       10.224.2.30/21 (Static)
    MAC:        00:80:E5:29:70:F4
    Gateway:    10.224.0.1
    Subnets:    10.0.0.0/8
                172.19.0.0/16
                172.21.0.0/16
    MTU:        1500

  Client Network
    CIDR:       47.47.2.30/21 (Static)
    MAC:        00:A0:98:59:8E:89
    Gateway:    47.47.0.1
    MTU:        2000

#################################################################
#####   If you are satisfied with this configuration,    #####
##### execute the script with the "install" sub-command. #####
#################################################################
```

4. 現在の設定のいずれかの値を変更する必要がある場合は、 configure サブコマンドを使用して値を更新します。たとえば、アプライアンスがプライマリ管理ノードへの接続に使用する IP アドレスを「 172.16.2.99 」に変更する場合は、 `+configure-sga.py configure --admin-IP 172.16.2.99_SGA -install-ip_` を入力します
5. アプライアンスの設定を JSON ファイルにバックアップするには、 advanced および「 backup-file 」サブコマンドを使用します。たとえば、 IP アドレスが「 *SGA -install-ip* 」のアプライアンスの設定を「 apply-SG1000 」という名前のファイルにバックアップする場合は、「 configure-sga.py advanced --backup-file appliance -SG1000 -sSGA -install-ip_ 」と入力します

   設定情報が格納された JSON ファイルは、スクリプトの実行元と同じディレクトリに書き込まれます。

   > 生成された JSON ファイルの最上位のノード名がアプライアンス名と一致していることを確認します。経験豊富なユーザで StorageGRID API について十分な知識がある場合を除き、このファイルに変更を加えないでください。

6. アプライアンスの構成に問題がなければ 'install' および 'monitor' サブコマンドを使用してアプライアンスをインストールします +`configure-sga.py install --monitor_sSGA -install-ip_
7. アプライアンスを再起動する場合は、 `+configure-sga.py reboot_sSGA -install-ip_` を入力します

StorageGRID の設定を自動化

グリッドノードを導入したら、 StorageGRID システムの設定を自動化できます。

必要なもの

- インストールアーカイブにある次のファイルの場所を確認しておきます。

ファイル名	説明
configure-storagegrid.py	設定を自動化するための Python スクリプト
storagegrid-sample.json を設定します	スクリプトで使用するサンプル構成ファイル
storagegrid-bank.json を設定する	スクリプトで使用する空の構成ファイルです

- 構成ファイル configure -storagegrid.json を作成しました。このファイルを作成するには、サンプル構成ファイル（「 configure -storagegrid-sample.json 」）または空の構成ファイル（「 configure -storagegridBlank.json 」）を変更します。

このタスクについて

configure -storagegrid.py Python スクリプトと、 configure -storagegrid.json 構成ファイルを使用して、StorageGRID システムの設定を自動化できます。

を使用してシステムを設定することもできます Grid Manager の略 または インストール API。

手順

1. Python スクリプトを実行するために使用する Linux マシンにログインします。
2. インストールアーカイブを展開したディレクトリに移動します。

   例： `+cd StorageGRID -Webscale --version/platform`

   ここで '*platform*` は 'debs’rps’vSphere' です

3. Python スクリプトを実行し、作成した構成ファイルを使用します。

   例：

```
./configure-storagegrid.py ./configure-storagegrid.json --start-install
```

完了後

リカバリ・パッケージの .zip ファイルは ' 構成プロセス中に生成され ' インストールおよび構成プロセスを実行しているディレクトリにダウンロードされますグリッドノードで障害が発生した場合に StorageGRID システムをリカバリできるようにするために、リカバリパッケージファイルをバックアップする必要があります。たとえば、バックアップされたセキュアなネットワーク上の場所や、安全なクラウドストレージ上の場所にコピーします。

リカバリパッケージファイルには StorageGRID システムからデータを取得するための暗号キーとパスワードが含まれているため、安全に保管する必要があります。

ランダムなパスワードを生成するように指定した場合は、「 passwords.txt 」ファイルを抽出し、StorageGRID システムへのアクセスに必要なパスワードを探す必要があります。

```
######################################################################
##### The StorageGRID "recovery package" has been downloaded as: #####
#####           ./sgws-recovery-package-994078-rev1.zip          #####
#####   Safeguard this file as it will be needed in case of a    #####
#####                 StorageGRID node recovery.                 #####
######################################################################
```

StorageGRID システムがインストールおよび設定されると、確認メッセージが表示されます。

```
StorageGRID has been configured and installed.
```

インストール **REST API** の概要

StorageGRID には、インストールタスクを実行するための REST API として、StorageGRID インストール API と StorageGRID アプライアンスインストーラ API の 2 つが用意されています。

どちらの API も、 Swagger オープンソース API プラットフォームを使用して API のドキュメントを提供しています。Swagger では、ユーザインターフェイスを使用してパラメータやオプションを変更した場合の API の動作を確認しながら、 API の開発を進めることができます。このドキュメントは、標準的な Web テクノロジと JavaScript Object Notation （ JSON ）データ形式について十分理解していることを前提としています。

> API Docs Web ページを使用して実行する API 処理はすべてその場で実行されます。設定データやその他のデータを誤って作成、更新、または削除しないように注意してください。

各 REST API コマンドは、 API の URL 、 HTTP アクション、必須またはオプションの URL パラメータ、および想定される API 応答で構成されます。

StorageGRID インストール API

StorageGRID インストール API は、 StorageGRID システムを最初に設定するとき、およびプライマリ管理ノードのリカバリを実行する必要がある場合にのみ使用できます。インストール API には、 Grid Manager から HTTPS 経由でアクセスできます。

API のドキュメントにアクセスするには、プライマリ管理ノードのインストール用 Web ページに移動し、メニューバーから * Help * > * API Documentation * を選択します。

StorageGRID インストール API には次のセクションがあります。

- *config *-- API の製品リリースとバージョンに関連する操作。製品リリースバージョンおよびそのリリースでサポートされる API のメジャーバージョンを一覧表示できます。
- * grid * — グリッドレベルの設定操作。グリッドの詳細、グリッドネットワークのサブネット、グリッドパスワード、 NTP および DNS サーバの IP アドレスなど、グリッド設定を取得および更新できます。
- *nodes * — ノードレベルの設定操作。グリッドノードのリストを取得できるほか、グリッドノードの削除、設定、表示、およびグリッドノードの設定のリセットを行うことができます。

- *provision * — プロビジョニング操作。プロビジョニング処理を開始し、プロビジョニング処理のステータスを表示できます。
- * recovery * - プライマリ管理ノードのリカバリ処理。情報のリセット、リカバリパッケージのアップロード、リカバリの開始、およびリカバリ処理のステータスの表示を行うことができます。
- * recovery-package * — リカバリパッケージをダウンロードする処理。
- *sites * — サイトレベルの設定操作。サイトを作成、表示、削除、および変更できます。

StorageGRID アプライアンスインストーラ API

StorageGRID アプライアンス・インストーラ API には '*Controller_IP*:8443 から HTTPS 経由でアクセスできます

API ドキュメントにアクセスするには、アプライアンスの StorageGRID アプライアンスインストーラのメニューバーから * Help * > * API Docs * を選択します。

StorageGRID アプライアンスインストーラ API には、次のセクションがあります。

- * clone * — ノードのクローニングを構成および制御するための処理。
- *encryption * — 暗号化を管理し、暗号化ステータスを表示するための処理。
- * ハードウェア構成 * — 接続されたハードウェアでシステム設定を構成するための操作。
- *installation * ：アプライアンスのインストールを開始し、インストール・ステータスを監視するための処理。
- * networking * — StorageGRID アプライアンスのグリッドネットワーク、管理ネットワーク、クライアントネットワークの設定、およびアプライアンスのポート設定に関連する処理です。
- * setup * - システムに関する情報の取得やプライマリ管理ノード IP の更新要求など、アプライアンスの初期インストール設定に役立つ処理。
- *support * — コントローラのリブートとログ取得のための処理。
- * upgrade * ：アプライアンス・ファームウェアのアップグレードに関連する操作
- **uploadsg** — StorageGRID インストールファイルをアップロードするための操作。

著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、http://www.netapp.com/TMに記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。